

# 中国 ビジネス

## 攻略の突破口は 人と政治の理解にあり

中国ビジネスで最も大事なものは「中国人を知る」こと。彼らのメンタリティーやバックグラウンドを理解すれば、トラブルを回避し、商機をつかめる可能性が高くなる。

著者：内山輝博さん（WBC社長）

世界最大の消費大国として存在感が地す中国。ビジネスチャンスを探るべく中国に拠点を設けたり、中国人を社員として雇入れたり、中国人観光客向けにビジネスを本格化させる企業は増えるばかりだ。海外ビジネスを考へるうえで、まず法律や労働、M&A（合併・買収）などに目を向ける人もいるが、ここ中国に関して何より大切なことは、「中国人を知る」ことだ。まずは違いを理解する。

実際に中国でビジネスをしていて実感するのは、彼らには関や会社に頼るという発想がなく、生きていることへの必死さやハンガリーさは日本人の将ではないということ。会社は将来のためのスキルを身に付ける場所であって、労働力を奉仕する場所ではない。だから、日本の感覚で、具体的に指示した以上の仕事を期待すれば、軋轢が生じるのは当然だ。また、中国人は「面子」を何よりも大切にしている。こうした日本人とのメンタリティーの違いをきちんと理解していれば、ありがちな多くのトラブルは

回避できる可能性が高い。ステップ1では、中国人を理解するに役立つ4作品を紹介している。私がナンバーワンと評価しているのが、マンガ『島耕作』。主人公が中国で下場従業員のストライキや女性絡みの揉め事など、様々なトラブルに直面する。なぜトラブルが起き、どう対処すれば解決できるのか、どんな態度を取ると取り返しのつかないことになるのかなど、リアルな中国人像が描かれている。マンガなので具体的なイメージが湧きやすいのもいい。残りの3冊では、中国人がどの

ような時に面子を保とうとするのか、相手の面子を立てようというくふうのしるべき点などについて具体的な情報やノウハウが得られる。ステップ2は中国の政治事情を理解するための本。小説『ペイジン』では中国の役人のバックグラウンドを、「ごとうだったのか! 中国」では文化大革命や改革・開放から現代まで続く共産党幹部の権力争い、勢力図の変化を分かりやすく学ぶことができる。「中国の政治なんて自分の仕事には関係ない」と思うのは大きな間違い。たとえ地方の役人であっても、必ず中央政権のどこかの派閥の流れを汲んでいる。もしあなたが下場建設などの仕事を手がける際には、必ず現場の役人との密なやり取りが必要である。その時、仕事をスムーズに進めるために、相手の事情や権限間の背景を理解しておくことは非常に大切だ。

ステップ3では、中国人の心をつかみ、彼らとシノを売るための実務を学べる本を紹介する。いきなりこうした実務書から入るより、ステップ1のことを経て、中国を知ってから読む方が、内容をより深く理解できるはずだ。



**内山輝博さん**  
Yuki Uchiyama  
WBC社長  
名古屋生まれ。2004年早稲田大学文学部中国語学専攻卒業。同年11月WBC設立。香港で中国語を学ぶベトナム人・フィリピン人を採用。企業や個人向けに翻訳。また、同システムを日本企業にも展開し、中国での普及にも力を入れている。2008年中国・上海に会社を設立。2008年からの2年間の売上と売上高で通じた経験も。

### Step3 ビジネスのノウハウを知る

中国人はどんなモノやサービスを欲しているのか。中国人にモノを売るための具体的なノウハウを学ぶ。

**「中国人観光客にもっと売る新おもてなし術」**  
著者 弘兼憲史 1470円  
大企業を相手に、買い物を大きな目的とする中国観光客。ところが、日本の企業や小売店は彼らの心をつかみ切れず、「売り過ぎ」による大きな機会損失が発生しているという。「彼らがどのような商品や接客を好み、その心に通えなければどうすべきか、具体的な接客が豊富。業績回復のヒントがきっと見つかるはずだ。」

**「巨龍に挑む——中国の道徳を変えたイートーロウのサムライたち」**  
著者 藤原 大輔 1480円  
イートーロウは1996年に中国・成都市に進出した。今やこの店は中国でも成功した外資と呼ばれる。会社はいかにして、異地の中国人の心をつかむことに成功したのか。驚きの軌跡がキエントラクターで描く。「日本式のおもてなし精神をどう中国人向けにアレンジすべきかなど、中国でモノを売る秘訣がよく分かるはず。」

### Step2 中国の政治事情を学ぶ

日本に比べて政治的影響力があるか大きい中国でビジネスをするには過去から現在に至る権力構造の変遷を正しく理解することが欠かせない。

**「ペイジン」(全2巻)**  
著者 山田 浩平 8680円  
中国・大連市郊外に建設された世界最大規模の原子力発電所を舞台にした小説。原発開発に関わった日本人技術者と中国側責任者である大連市党副書記との最悪のバトルが描かれる。「中国の役人がいかに出世の階段を上るのか、その過程でどのような権力を身につけるのか、といった役人のバックグラウンドを学ぶことができます。」

**「ごとうだったのか! 中国」**  
著者 藤原 大輔 790円  
毛沢東時代から現代までの中国の政治の道徳を解説。「誰が誰を支援し、誰と誰が反発しているか」といった共産党の勢力図がよく分かる。そうした背景を踏まえた上、つい先日、重慶市のトップが解任に追い込まれ、無罪が米大使館に駆け込んだのはなぜかなど、現在進行形の出来事の意味も理解できるようになります。」

**「チャイナ・ナイン 中国を動かす9人の男たち」**  
著者 藤原 大輔 1790円  
中国13億人を率いる、中国共産党中央委員会のトップ9人。彼らは何んな派閥争い、争い、権力争いをして権力を握ったのか、生や死、権力の全貌を赤裸々に描く。今年秋に予定されている政権交代の行方も、(時事ネタもカバー)され、今現在の中国の政治を理解するのに最適。

### Step1 中国人を理解する・接し方を学ぶ

中国人と日本人は考え方が全く違う。まずは彼らがどんな価値観を持っているのかを理解することから始めよう。

**「知っておくと必ずビジネスに役立つ中国人の面子」**  
著者 藤原 大輔 1360円  
中国人が最も大切にしているのが「面子」。面守るという、大声で話すのもすべて、面子を守るためだ。この「面子」について特化し、ここまで徹底的に分析した本はこれまでになかった。仕事相手の裏に飛び込むためには、相手の面子に配慮することがどれほど大切かがよく分かる。

**「すぐに役立つ 中国人とうまくつきあう実践テクニック」**  
著者 藤原 大輔 1360円  
中国人の価値観や人間意識、絶対に買ってはならない、禁止フレーズなどを徹底。「人との関係を大きく自分とその他」で捉え、日本人をはじめとする外国人はさらにその外にも——といった中国人の概念が図解され、参考しやすい。同じ著者の面子の本(上で紹介)とセットで読むといい。

**「それでも中国で儲けなければならぬ日本人へ」**  
著者 藤原 大輔 1790円  
北京大学を卒業し、オムロンなどで中国ビジネス経験を経てコンサルタントに転じた著者が、雇員・経理・人件費の高騰、反日デモ、勝算など具体的な事業を結びつながら中国人のメンタリティーや、日本人が気づけるべきことなどを解説する。「私が日々学んできたことを代弁してくれる本です。」



**「島耕作」シリーズ**  
企業家と第一読者 530-570円  
大手電機メーカーを舞台にしたビジネスコミック。中国が主な舞台になっているのは「取締役 島耕作」と「営業 島耕作」。また、最新シリーズの「社長 島耕作」でも所々が中国が舞台。最新情報が盛り込まれているのでフォローしておきたい。「中国人の関心は株金主義が横行しているように見えるが、実は最終的にモノを言うのは人間力。自分の言葉で誠実に語りかければ分かってくれる。そうした彼らのメンタリティーがよく分かる。彼らとどう接するべきかを考える際のヒントが見つかる。」(内山さん)。同シリーズについては61ページでも紹介。